

医薬保健学域 > 医学類

授業科目名[英文名] / Course Title	人体の正常構造[Human Anatomy]		
担当教員名[ローマ字表記] / Instructor	尾崎 紀之 [OZAKI NORIYUKI]、 <u>易 勤</u> [I TSUTOMU]、 <u>山口 豪</u> [YAMAGUCHI TAKESHI]、 <u>堀 紀代美</u> [HORI, Kiyomi]、 <u>蒲田 敏文</u> [GABATA TOSHIFUMI]、 <u>伊藤 真人</u> [ITO MAKOTO]		
時間割番号 / Course Number	41001	科目区分 / Category	必修
講義形態 / Lecture Form		対象学生 / Assigned Year	2年
適正人数 / Class Size		開講学期 / Semester	通年(前期→後期)
曜日・時限 / Day・Period	集中	単位数 / Credit	4
キーワード / Keywords	肉眼解剖学, 系統解剖学, 局所解剖学, 臨床解剖学, 発生学, 系統発生学		

授業の主題 / Topic

肉眼で観察し得るすべての人体の正常構造について学ぶ。

授業の目標 / Objective

ヒトの生理的機能や、疾病や傷害における病態生理を理解するための基盤となる人体の正常構造を理解する。

学生の学習目標 / Prerequisites

1. 肉眼で観察し得るすべての人体の正常構造について学び、ヒトの生理的な営みや、疾病や傷害における病態生理を、それに関わる人体の構造に基づいて説明できるようになる。
2. ヒトのからだが作られる過程・しくみ(発生学)や、他の生物との違い(比較解剖学)、ヒトの進化の過程(系統発生学)を理解することで、生物の一員としてとらえたヒトの正常構造への理解を深める。
3. 講義や参考書で学んだ人体の正常構造に関する知識を、解剖学実習に真剣に取り組むことで自分の生きた知識としてしっかりと定着させる。
4. 解剖学実習を通し、篤志献体の精神を理解する。

授業の概要 / Outline

1. 系統講義
 - a. 人体の正常構造を学ぶ上で基本となる解剖学用語、概念、解剖学の教育・研究を支える篤志献体について説明する。
 - b. 人体の正常構造について、系統、器官ごとに概説し、引き続き行われる解剖学実習に必要な知識を修得することを目標とする。
2. 骨学
 - a. 講義では人体の骨組みとしてまた運動器として重要な骨格とそれを構成する骨の構造を説明し、骨格系の解剖学用語を教示する。
 - b. 実習では、骨の構造を正確に理解するための骨標本の観察とスケッチを行う。
3. 実習講義、人体解剖学実習
 - a. 実習講義と実習とを関連付けて行う。
 - b. 講義では、その日に行う解剖学実習での重要項目、実習の目標、剖出して観察すべき構造、それらの局所における三次元配置について、発生学、局所解剖学ならびに臨床医学との関連の観点から概説する。
 - c. 講義に引き続き行われる実習では、ご献体を自らの手で解剖し自らの目で観察しながら、人体の立体的構築や内部構造を機能と関連させながら理解し、知識の定着を図る。重要な構造についてはスケッチなどのレポートの提出をもとめる。実習中に遭遇した興味深い構造や、解剖学的にまたは臨床医学との関連で重要と思われる構造をテーマとして、授業の中で発表してもらうこともある。
 - d. 所属教員以外にも学内・学外の講師を招き、最新の解剖学的研究成果を学ぶ機会を設ける。人体の肉眼解剖学をより深く理解してもらうために、放射線科教員により、レントゲン写真や最新のCTによる画像解剖の講義を行う。また、側頭骨・頭蓋底外科、ならびに副鼻腔の手術解剖について、耳鼻咽喉科教員の指導により、手術用顕微鏡、内視鏡などの手術器械を用いた実際の手術手技に準じた解剖を供覧することで、頭蓋底の骨組織内の手術解剖を学ぶ。

評価の方法 / Grading Method

- ※成績評価： 次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定する。
 「S(達成度90%~100%)」、「A(同80%~90%未満)」、
 「B(同70%~80%未満)」、「C(同60%~70%未満)」を合格とし、
 「不可(同60%未満)」を不合格とする。(標準評価方法)

成績評価は全ての試験成績の合計、レポート、実習中の諮問、実習態度、出席状況に基づいて行う。系統講義と骨学の内容についての中間試験と、講義・実習全ての内容についての期末試験を行う。中間試験は筆記試験、期末試験は筆記試験と実習試験を行う。

評価の割合 / Grading Criteria

テキスト・教材・参考書等 / Teaching Materials

● [図書館トップページへリンク](#)

実習書

- ・解剖実習の手びき、寺田春水、藤田恒夫著、改訂11版 南山堂、2004年
- ・骨学実習の手びき、寺田春水、藤田恒夫著 第4版、南山堂、1992年

アトラス

- ・ネッター解剖学アトラス、Frank H. Netter著、相磯貞和訳、南山堂、2007年
- ・解剖学カラーアトラス第6版、Johannes W Rohen著、横地千仍訳、医学書院、2007年

教科書

- ・グレイ解剖学、Richard L Drake他著、塩田浩平他訳、エルゼビアジャパン、2007年
- ・臨床のための解剖学、Keith L Moore他著、佐藤達夫他訳、メディカルサイエンスインターナショナルジャパン、2008年
- ・解剖学講義、伊藤隆著、改訂第2版、南山堂、2001年
- ・分担解剖学、小川 鼎三他著、金原出版、1950年
- ・コア解剖学、Kyung Won Chung著、松村 譲児他訳、丸善、2001年

書籍の詳細情報を閲覧できます。

教科書:

[解剖実習の手びき](#)

[ネッター解剖学アトラス](#)

[グレイ解剖学](#)

参考書:

[骨学実習の手びき](#)

[臨床のための解剖学](#)

[解剖学講義](#)

その他履修上の注意事項や学習上の助言 / Others

「人体の正常構造」は、それにかける時間に比べ学ぶべき内容がとても多い。また、他の専門科目や臨床医学を学ぶ上で基礎となる知識なので理解が不十分だと、後々の学習に大きな支障をきたす。

履修期間中の週3回の解剖学実習は精神的にも肉体的にもとてもハードスケジュールである。教科書、参考書を利用した受講前の予習を強く勧める。

教科書、参考書についてはそれぞれの原書が図書館にあるので、原書に取り組むことを勧める。

オフィスアワー等(学生からの質問への対応方法等) / Consultation Time

E-mail等(授業開始時に伝える。)

履修条件 / Prerequisites

適正人数と受講者の調整方法 / Method for adjusting class size

関連科目 / Related Courses

カリキュラムの中の位置づけ(関連科目、履修条件等) / Relations with the Other Courses in the Curriculum

特記事項 / Special note

開講学期、開講時限等は時間割表等で確認すること。

[×閉じる](#)